

土に還ろう

農チャレンジ農ライフ

< 2 >

中学生のころからの夢がこの春かなう。新潟大学農学部を卒業して就職するのは、牛百五十頭を育てる長野県木島平村の中沢牧場。農業とは無縁の家庭に育った大学生は酪農家の道を歩みだす。

酪農を志したきっかけは中学時代にテレビで見た牛の放牧風景だった。「伸び伸びしていいいな」。将来の職業イメージがわいた。農業高、農学部と進んだが牧場とは地縁も血縁もない。それを結び付けたのがインターネットだった。

青沼 光さん (22) =新潟市西区=

見。近場を条件にしてヒットしたのが中沢牧場だった。

一方、青沼さんを受け入れる同牧場の経営者、中沢久夫さん(六〇)は後継者探しに懸命だった。「五、六年ほど

ネットを通じ牧場と縁

夢見据え「後継者」目指す

全国の大学にお願いしたり、雑誌に広告を出したりしたが駄目だった」と中沢さん。最後にたどりの着いたのがこのサイトだった。中沢さんが後継者募集をサイトに掲載するとすぐ

研修に訪れ、その中に青沼さんの姿があった。青沼さんは研修中、中沢さんの酪農技術に「ほれた」。高校・大学で酪農を学んだが十

から牛も中沢さんのいうことはよく聞く。スムーズに操って搾乳し、餌をやる。机上の理屈ではなく、四十一年の経験に裏打ちされたやり方は「体になじむように吸収できた」。

後「うちにくるか」と中沢さんに声を掛けられた。「もっと教わりたい」と入門する決意を固めた。

三年生の夏、就職先を探そうと試みにインターネットで検索したら就農専門サイト「第一次産業ネット」を発

頭、二十頭の実習でいつもまごついた。だが、中沢さんは百五十頭を牛への愛情だ。酪農家によつては牛を「モノ」のように扱い、追い込

研修を始めて一週間後「うちにくるか」と中沢さんに声を掛けられた。「もっと教わりたい」と入門する決意を固めた。

夢は膨らむばかりだ。



北信越畜産学会で、中沢牧場の乳牛をサンプルに出産と飼育の関係をまとめた研究論文を発表する青沼光さん(19日、新潟大学農学部)

えて挑戦したが、ここまで反響があるとは予測できなかった」と話す。

35歳以下が7割を占め、最近では就職活動を控えた大学3年生の登録も増えてきたという。

就職活動サイト「リクナビ」を手掛けるリクルート(東京)によると、07年秋冬に学生らがサイト内で「農業」をキーワードに検索した件数は200位だったが、08年秋冬には100位に上昇。同社広報部は「景気が悪くなり、ジャンルに幅を持たせて就職活動をしているのかもしれない」と分析している。

就職活動生の登録増

就農希望者がインターネットを通して雇用主との出会いを求めるケースが増えている。親から継ぐケースが多く、第三者が参入しづらい農業分野で新たな職探しのツールとして注目されている。

農業、林業、漁業専門の求人情報サイト「第一次産業ネット」では、2008年11月末から登録者が急増。1日の登録者は設立した06年の10人に比べ3倍に増えた。

同サイトを運営するライフラボ(東京)の山田理文取締役は「求人ビジネスでは手つかずの分野だった農業にあ